



## くれよん にじ組

9月に入り、これから少しずつ涼しくなっていくのが楽しみです。

夏の間、子どもたちはご家庭や保育園で様々な経験を通し、また一段と逞しく成長したように思います。

夏祭りごっこでは、グループごとに分かれての活動で、子どもたちが主体となって各お店を盛り上げてくれました。保育者が予想していた以上に自分たちで考えて準備を一所懸命に進め、当日もそれぞれの役割を意識して動くことができていました。

これから運動会に向けての練習や準備が本格的に始まっていきますが、子どもたちのさらなる成長が楽しみです！

### 自分で考えて行動する力を育む＝思考力：自立心

幼児期の終わりに育ててほしい「10の姿」の中に「思考力の芽生え」という項目があります。難しそうな言葉ですが、これは遊びや生活の中で「どうすればうまくいくかな？」と子ども自身が自問自答し、工夫するプロセスのことです。たとえば積み木なら「崩れないように高くするには？」「見本と同じ形にするには？」、友だちとの関わりなら「なんて言えば仲間に入れるかな？」と考える姿すべてが「思考力の芽生え」につながっています。

日常のトラブルでも同じです。「お茶をこぼした！」という時、大人がすぐに拭いてあげるのは簡単ですが、私たちはあえて一歩引き、子どもからの発信を待つようにしています。

「あ、こぼしちゃった...」「雑巾持ってくる！」「拭くのお手伝いするよ」と、先回りしないことで子どもが自分の頭で考え状況を判断し、行動に移す大切な「時間（間）」が生まれます。保幼小連携の研修では、小学1年生の担任の先生から「先生、これ正解ですか？」「何が正解ですか？」と答えを求める子や指示待ちの子が多いというお話がありました。周囲の大人が先回りして「こうしなさい」と指示を出しすぎると、自分で考える機会を奪ってしまいます。失敗も含めて「自分で考えて試せた！」という達成感こそが、小学校以降の自律的な学びや自己肯定感の土台になります。

子どもたちが困っている時、ほんの少し距離を置いて見守り、一生懸命考えたプロセスをしっかりと認めていきたいと思います。

#### 【この姿に関わる「10の姿」】

★ 思考力の芽生え（どうすればよいか判断し、方法を考える）

★ 自立心（自分で考えて判断し、主体的に行動する）

